



Society5.0 時代における
カーボンニュートラル社会の実現に向けて

金沢工業大学 イノベーションハブ

地方創生研究所

KIT / Innovation Hub Institute for Regional Revitalization and Innovation

社会課題の解決に向けた産学連携・社会実装型研究開発拠点

金沢工業大学地方創生研究所の取組紹介

地方創生研究所とは

Institute for Regional Revitalization and Innovation



◆ 人間形成

我が国の文化を探求し、高い
道徳心と広い国際感覚を有す
る創造的で個性豊かな技術
者・研究者を育成します。

◆ 技術革新

我が国の技術革新に寄与する
とともに、将来の科学技術振
興に柔軟に対応する技術者・
研究者を育成します。

◆ 産学共同

我が国の産業界が求めるテー
マを積極的に追究し、広く開
かれた学園として地域社会に
貢献します。



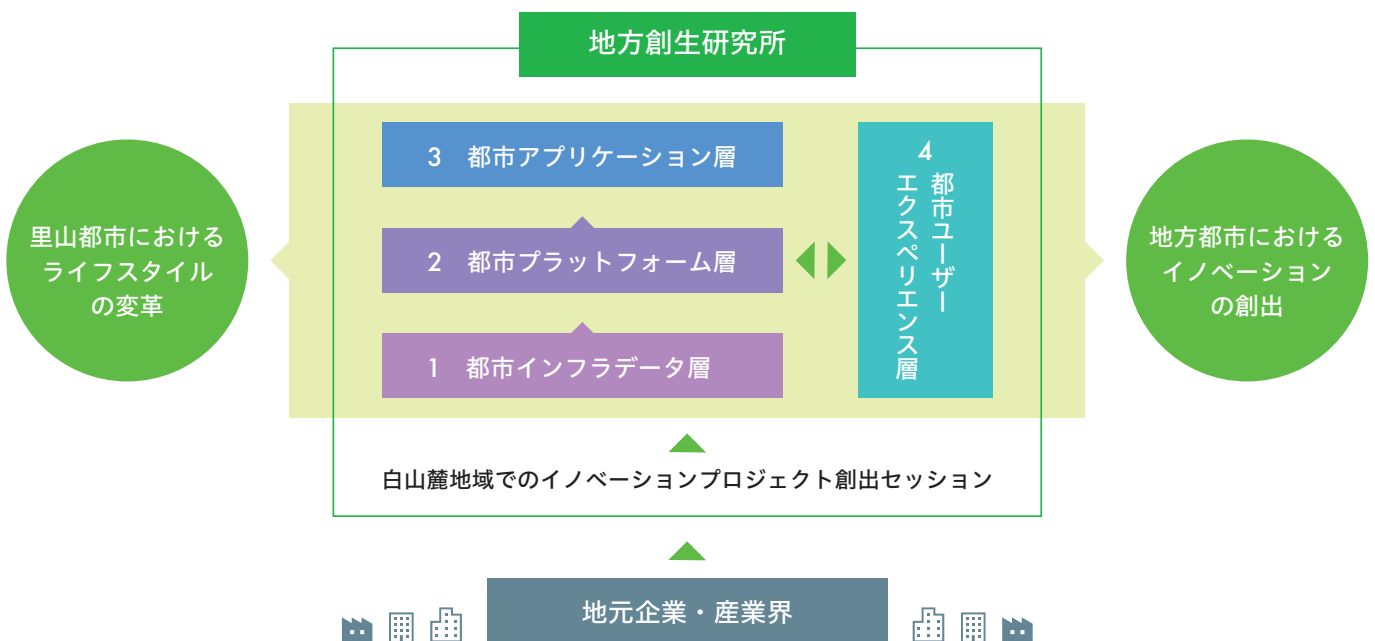
金沢工業大学 学長 /
地方創生研究所 所長

大澤 敏

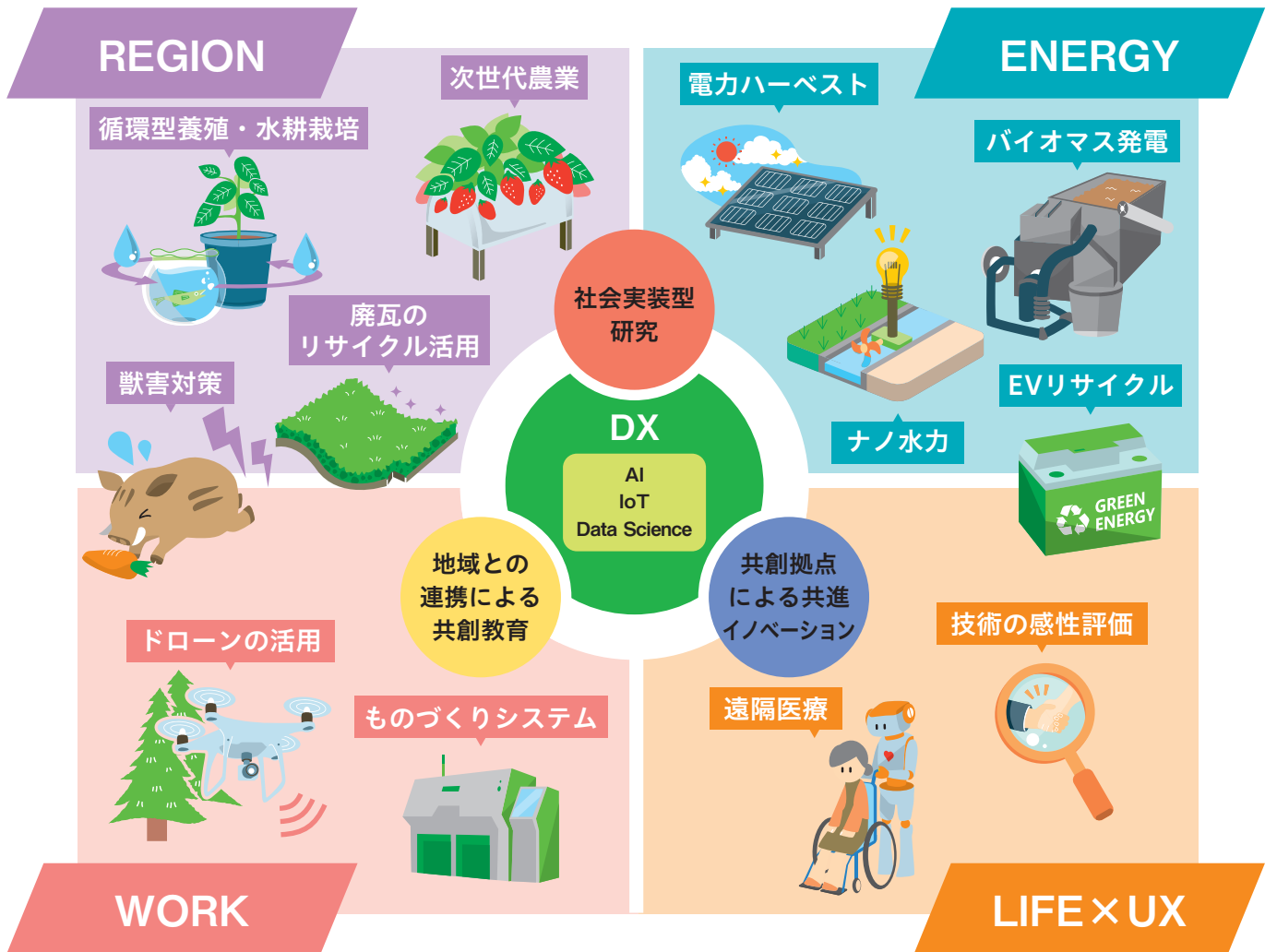
Message

長期的な人口減少と都市部への人口集中を背景に、地方創生に取り組む研究機関として設立された当研究所は、研究フィールドとなる地方山間部の新たな街を「里山都市」と位置づけています。里山の持つ自然との共生、豊かなライフスタイルをユーザーエクスペリエンスの観点から研究し、AI、IoT、Data Science等を駆使した防災・エネルギー・教育・医療・福祉・産業振興に結びつけ、地方都市における従来型ビジネスモデルをイノベーション創出型の新規ビジネスへと変革させることが当研究所の目標です。その成果は、都市部、さらには世界各地域にも適用されることとなります。地元企業、産業界、自治体との連携を通して「未来の産業を創生する」全学横断型イノベーションプロジェクトを推進します。

多様な領域で展開する研究プロジェクト



》 研究活動領域



先端技術の研究シーズと社会連携で地域の社会課題解決に挑む

地方創生研究所では、地域が抱える問題の解決のために、我が国が目指すSociety 5.0のビジョンを共有し、サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムを社会実装する教育研究活動や産学官民金連携によるイノベーションプロジェクトを推進しています。

具体的には、地方創生研究所が保有する「空間情報」「エネルギー」「グリッド」「ロボット」「人工知能」「IoT」「センサー」「画像認識」「感性評価」等の各研究シーズを軸として、カーボンニュートラルの達成に資するエネルギーマネジメントプロジェクトや、地域産業のDX（デジタルトランスフォーメー

ション）を具現化するデータ活用・ICT基盤整備等のプロジェクト、さらには産業界が有するソリューションやプロダクトの実質的な社会実装をユーザーエクスペリエンスの観点からサポートするプロジェクト等を積極的に推進しています。

すでに成果が生まれつつある取り組みから、これから動き出すテーマまで、産学官民金連携による多彩なプロジェクトによって、既存の経済圏にとらわれることなく、地方から新たなビジネス市場を創出していく試みに挑戦します。また、全てのイノベーションプロジェクトの根幹は、経済・環境・社会の調和を目指すことにあり、国連に加盟する世界193か国が合意したSDGsの達成を目指しています。



》産学連携の方針

共創拠点による「実装研究×共創教育」の取り組み

産業界と“共同と共創”の関係を強固なものとして築き「共進する」という考え方のもと、共創拠点を活用しながら「実装研究×共創教育」を推進し、持続可能な未来社会の実現を目指します。



》産学連携による社会実装型教育研究の取り組み

産業界との“共同と共創”を通じて、持続可能な未来社会の実現を目指します。

「企業」と「大学」組織間連携



「教育」と「研究」活動を通じて、産学連携を推進します。

社会実装を目指した実証実験



教育

プロジェクト
デザイン型教育

研究

基礎研究
応用研究

技術によるブランディング



地域産業の活性化



産学協同

共同研究
地方創生
人材育成



産学連携による独自ブランドの特色化を目指します。

地域に根差した産業と技術の独自化を進め、活性化に繋がります。

技術移転の障壁を共に乗り越えていくための **伴走型産学連携** が特色です

CL (Collaboration Levels) は、金沢工業大学が提供する複層の産学連携のレベル、
TRL (Technology Readiness Levels) は、社会実装に向けた技術の成熟度のレベルです。



CL (Collaboration Levels)		
1	産学共同研究	大学のシーズと企業のニーズをマッチングすることで、技術相談から大型プロジェクトまで幅広く産学共同研究を推進します。
2	社会人リカレント教育	リカレント教育プログラムをご活用頂くことで、新技術・ノウハウ創出の円滑化をご支援させていただきます。
3	コーオペ教育	コーオペ教育を通じて、学生・教員との関係性を深化させ、事業の発展および課題の解決に向けて取り組みます。
4	共進プロジェクト	企業と大学が連携したプロジェクトや共創ラボにより、多様なステークホルダーとイノベーションを創出します。

TRL (Technology Readiness Levels)		
1	基礎理論の確認	研究室において、原理・理論を考案します。
2	技術コンセプトや運用アプリケーション検討	研究室において、実験やシミュレーションにより、コンセプトを検討します。
3	コンセプトの実証 (POC) ※ POC : Proof of Concept	研究室において、検討したコンセプトをモデル化し、実験等により検証します。
4	各要素モデルによる検証	実フィールドで利用することを想定したコアとなる要素技術について検証します。
5	プロトタイプモデルの製作	産学連携にて分担し、プロトタイプモデルの製作を行います。
6	プロトタイプモデルによる実証	キャンパス内等で、プロトタイプモデルを実際に組み込み実証をします。
7	実運用レベルでの機能・性能の実証	実フィールドにおけるモデルの性能を評価するために支援させていただきます。
8	製品としての認証・規格化	規格化に向けたモデルの性能評価を支援させていただきます。
9	製品化、社会実装による評価	実フィールドにおけるユーザからの製品の性能評価について支援させていただきます。

イノベーションHubのご案内

Innovation Hub

メンバーシップ企業と地方創生に取り組む 共創拠点

地方創生研究所の拠点「イノベーションHub」がある白山麓キャンパスは社会課題の解決をコンセプトの一つとしており、キャンパス内ではメンバーシップ企業と連携した様々な実証実験が行われています。



白山麓キャンパス



1 エネルギーシェアリング
実験環境および
EV双方向充電システム



連携企業 (株)成宏電機

2 バイオマスシステム
(ボイラー、スターリングエンジン、
井戸水循環機器等)



連携企業 (株)イクロス
(株)エコステージ

3 実証実験農場



連携企業 北菱電興(株)

4 直流給電システム
(DCリンク)



連携企業 (株)成宏電機
東亜電機工業(株)
北陸電気工事(株)

5 瓦実証実験駐車場



連携企業 小松製瓦(株)
(株)エコシステム

6 ドームハウス 循環型
養殖・水耕栽培システム



連携企業 ジャパンドームハウス(株)
北陸電力(株)・北菱電興(株)
(株)アクボニ

7 5G通信



連携企業 (株)NTTドコモ

》イノベーションハブの機能

地方創生研究所をはじめ、白山麓における産学連携・地域連携活動の拠点となる教育研究・研修棟です。ミーティングやグループワーク、ものづくりなどに活用できるスペースや設備を揃えています。メンバーシップにご登録頂くと、これらの施設利用に加え、キャンパス周辺の環境を利用した実証実験を行って頂く際に、KITの教職員がそれぞれのリソースを活用した様々な形で実証実験のサポートを行わせて頂きます。



情報提供

研究情報
セミナー
データレイク



実証実験

技術相談
実験環境調整
マッチング



設備利用

ワークスペース
宿泊施設
カンファレンス

各種セミナーの
開催・情報提供

社会インフラ、
自然環境、生体
等のデータ利用
サービス

実証実験での作
業スペース、機
材設置スペース

実証実験に向け
た技術相談

社内・社外に向けた情報提供、プロ
ジェクト活動に活用するカンファレ
ンススペース

産学連携・研究課題の事前調査と
シーズ・ニーズのマッチング

実証実験実施
における地域
や自治体との
環境調整

シーズ/ニーズ、
連携企業、共同
研究などのマッ
チングサポート

現場滞在型実証
実験のための宿
泊施設

ワークショップ・
セミナーの開催



CONFERENCE ROOM



TECH WORK SPACE



I-HUB SALON

カーボンニュートラルを実現するためのクリーンエネルギーシステム

電力と熱を 地産エネルギーとして創出



地域資源の活用と 里山の保全



北陸地方から
全国へ

さらには世界の
無電化地域へ

地産エネルギーの ベストミックスな運用



再生可能エネルギーの 利活用技術



カーボンニュートラル社会を牽引する実証実験キャンパスと、
社会課題解決型の産学連携プラットフォーム構築を目指します。

全世界的に脱炭素社会の実現に向けたカーボンニュートラルの取り組みが進められています。我が国では、国と地方の共創による、地域における2050年脱炭素社会実現へ向けてロードマップを設けており、「大学キャンパスなどの特定サイト」が脱炭素先行地域の事例として想定されています。

これらを背景に、金沢工業大学は全学的に学科横断型のカーボンニュートラルに向けた独自の教育研究活動を推進しています。

本学では、大学キャンパスが地域に根差した様々な人材のプラットフォームである特徴をベースに、“産業界ならびに地域との共創”、そして科学技術イノベーションの観点から、カーボンニュートラル実現へ貢献します。

本学の取り組みのキーとなるイノベーションシーズとして、「エネルギーハーベスト」「セクターカップリング」「直流電力

を位置付けています。また、本学では、“カーボンニュートラル”については、温室効果ガス全体の排出量について、森林などによる吸収量を差し引いたゼロバランスと定義しており、地域のバイオマス資源との循環を考慮したデザインも描いています。

メインキャンパスである「扇が丘キャンパス（石川県野々市市）」では、近隣のステークホルダーとの連携を想定した社会実装事業に取り組んでいきます。

実証実験キャンパスとして位置付けている「白山麓キャンパス（石川県白山市）」では、カーボンニュートラルのベース技術となるエネルギー循環システムの実証を行っています。

双方のキャンパスにおけるステークホルダーの共同と共創を通じ、地域の特色を活かしつつ、引き続き、技術の社会実装を目指します。

◆ 内閣官房「国土強靱化 民間の取り組み事例集」に掲載

内閣官房のWEBサイトに、国土強靱化 民間の取り組み事例集が公開され、「災害時でも自活できるエネルギーの供給モデルを考案」として紹介されました。

この事例集は、内閣官房がこれから国土強靱化に関する取り組みを行う方々の参考として、国土強靱化に関して先導的な取り組みを収集したものです。

◆ 第11回「いしかわエコデザイン賞2021」金賞を受賞

金沢工業大学 地方創生研究所が株式会社宏成電機、北菱電興株式会社らと進める「地域特性を活かした再生可能エネルギーシェアリングシステム」が産学連携による社会実装の成果として、石川県の第11回「いしかわエコデザイン賞2021」サービス領域の金賞を受賞しました。

電力 熱

電力 太陽光発電

電力 双方向充電器

電力 風力発電

電力 電動自転車発電

電力 直流制御システム (パソコン、蓄電池、監視制御装置)

電力 熱

バイオマス

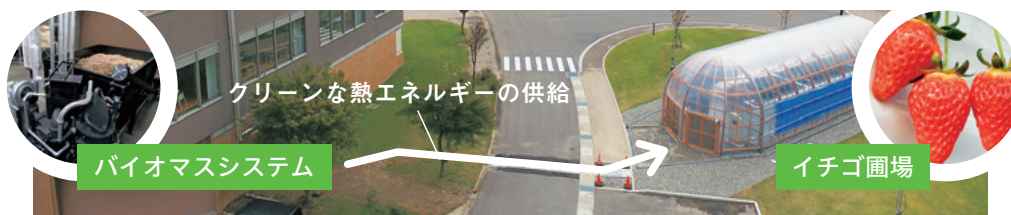
熱 いちご圃場

電力 熱電発電

電力 スターリングエンジン発電

白山麓キャンパス

← 地域特性を活かしたエネルギーミックス&シェアリング →



project

誰でもできるクリーンな次世代農業 DX システム

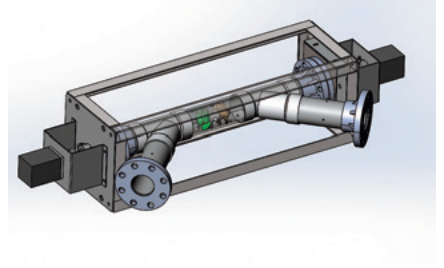
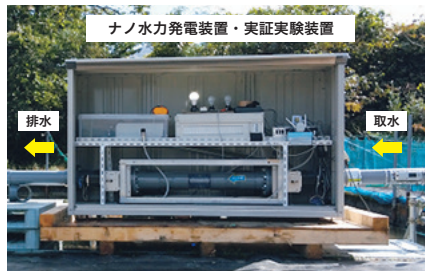


金沢工業大学と北菱電興株式会社（石川県金沢市）は、令和元年10月、研究用いちご圃場を金沢工業大学白山麓キャンパス内に設置し、高品質ないちごの生産に向けた新たな実証研究を開始しました。

金沢工業大学では平成27年より北菱電興株式会社との間で、センサを使ったいちご圃場制御に関する共同研究に取り組んでいます。当初は北菱電興株式会社が七尾市中島町で運営する太陽光発電を使ったいちご圃場「アグレッシブアグリ 鹿島

台」で研究を進めていましたが、同社がマイクロ水力発電を使ったいちご圃場として「いちごファーム Hakusan」を平成29年12月に白山市上野町（旧鳥越村）で開設したことにより、研究フィールドを「いちごファーム Hakusan」に移設。共同開発した安価なセンサで圃場内の気温や湿度、照度、CO₂濃度、土壌水分量を測定し、遮光カーテンの開閉や空調制御の自動化を実現しようとしています。

地域特性を生かしたナノ水力発電システム



金沢工業大学、国際高等専門学校と、東プレ株式会社（東京都中央区）は、農業用水を利用したナノ水力発電の実証実験を実施しています。東プレ株式会社では、農業用水などが保有する余剰圧力（未利用エネルギー）を活用したナノ水力発電システムの開発に取り組んでおり、近年普及しつつある小水力発電装置（マイクロ水力発電装置）よりも小型であるため、山間の用水路のような、従来の小水力発電装置では設置しにくかった箇所でも容易に設置可能です。農業用水からパイプで取水し、装置中央にあるデュアルタービンを回転させることで両端にある発電機にて発電し、発電量は約1kW（一般家庭2世帯分）あります。またパイプで取水するため水量の変化による発電量の変動は少なく、一日中安定した出力で発電することができます。

詳細はWEBをご覧ください

https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitnews/2020/1214_nanosuiryoku.html



廃棄瓦を利用した緑化コンクリート



平成30年度小松市産学官共同研究促進事業認定式

廃棄瓦は従来多くが埋め立て処分されてきました。一方、多孔質物質である瓦には「吸水」「保水」「保温」などの機能があり、骨材として利用することで植生可能な緑化コンクリートを実現できます。

都市部におけるヒートアイランド現象の緩和は全国的な課題となっています。廃棄瓦を有効利用した緑化コンクリートは環境低負荷型建築材料として、緑化事業や緑化舗装などの建設分野で利用用途が期待されています。

※本事業は平成30年度小松市産学官共同研究促進事業として進められたものです。

詳細はWEBをご覧ください

https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitnews/2020/0318_hanaoka.html



森林画像情報に AI を活用した林業 DX



生物系特定産業技術研究支援センターの「イノベーション創出強化研究推進事業」として採択され、「森林画像情報に AI を活用し林業 DX を現場実装するための WEB アプリの実用化」で、石川県農林総合研究センター、石川県森林組合連合会、株式会社エイブルコンピュータ（石川県金沢市）との産官学共同で進めています。森林の資源量等の調査・分析のため、小型無人機（UAV、ドローン）や全天球カメラで撮影した森林画像を AI エンジンで解析し、森林境界の明確化支援や資源情報の把握ができる WEB アプリの社会実装（製品化）



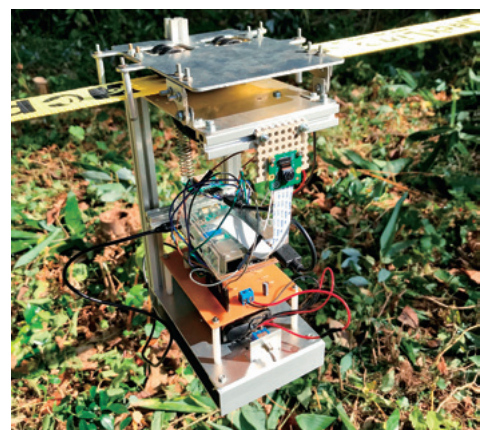
（この画面は開発中のものです）

を行います。金沢工業大学は、平成 30 年度「イノベーション創出強化研究推進事業」に採択された 3 年計画のプロジェクトにおいて共同研究機関として研究を実施してきましたが、この研究を全国展開していくため、令和 3 年度から研究代表機関となりました。また、これまでのプロジェクトは、同事業「応用研究ステージ」での実施でしたが、優れた成果や将来性が見込まれる成果として、「開発研究ステージ（実用化研究型）」への移行が認められ、取り組むものです。

ロボット技術を活用した獣害対策

耕作放棄の農地や竹林などを利活用したにぎわいの創出を目指す NPO 法人みんなの畑の会（金沢市しじま台）、石川県立大学 環境科学科 大井徹教授と連携して、害獣対策ロボットの試作機を開発しました。このたび開発された試作機は、幅 110mm、高さ 260mm、奥行き 150mm、重さ 1.35kgf のベルト移動型のものです。起伏や傾斜がある里山での利用を想定し、木々の間に張られた架線（ベルト）を伝って移動します。搭載されたカメラで害獣を認識、追尾し、音や光などを発して害獣を撃退します。また高齢者でも扱えるよう、ベルトへの着脱はバネによる蓋の開閉で簡単にできるようになっています。プロトタイプを使った走行実験では、ベルトが濡れた場合でも走行に支障はなく、またカメラによる物体検出実験では、走行時も害獣にみだてたぬいぐるみを検出することが確認できました。

NPO 法人みんなの畑の会は、金沢工業大学や石川県立大学、国際高専などの県内の大学や、株式会社シコウ（石川県金沢市）と連携した害獣対策や伐採した竹の災害時の有効利用などの地方創生に向けた取り組みが評価され、石川県から「石川版里山づくり ISO」の認証を受け、金沢市から「令和元年度 いいね金沢環境活動賞」を受賞しています。



詳細は WEB をご覧ください

https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitnews/2020/0312_doi.html



「里山バイオラボ」による里山環境の科学的な実証

里山バイオラボは遺伝子解析や微生物分析を行い、研究の成果を地方創生へつなげることを目指した施設です。比較的安価で使いやすい最新の機器を揃えており、子どもたちや地元の人たちも参加して遺伝子や微生物の研究ができます。

里山バイオラボでは近年の微生物研究で注目されている「微生物叢」(特定の場所に存在する微生物全体を研究する)の解

析をテーマにしており、里山から市街地に至る微生物叢(植物、水、土壌など)と住環境や人の健康とのかかわりを調査します。微生物叢の解析結果をビッグデータとして扱うことで、空気や水に新たな価値を見いだすことを目指しています。将来的にはこの研究は他の地域への横展開が可能であり、DNAや微生物に注目した里山環境のデータベース化が期待できます。

研究の概要

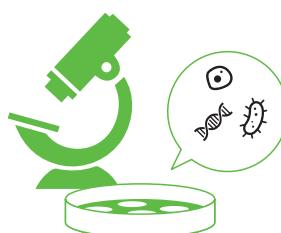
バイオラボ



自然環境と微生物 (多様性)



検鏡・コロニー観察



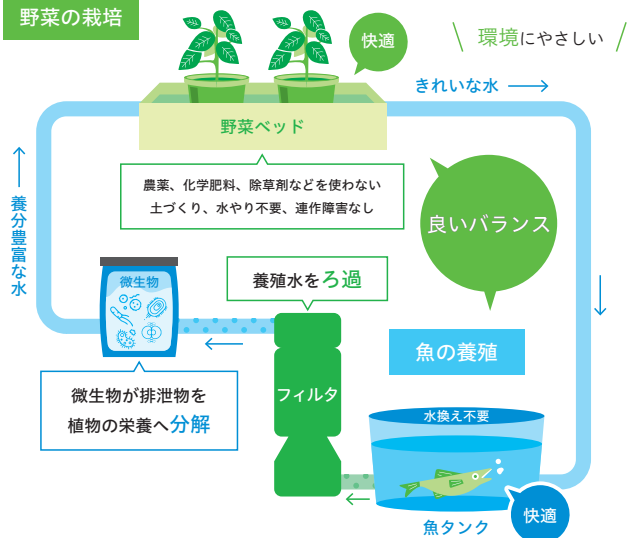
網羅的DNA解析

```
TCCAGCAATATCACCAGCAGTTC
CCGAACGGATCCGCCATCACCGTG
AATTGGTGATCCCCCATAAGCCCA
TTGCGCCC
```

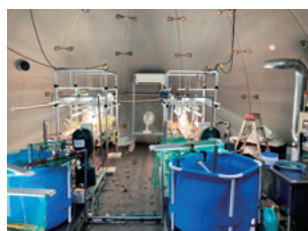


循環型の養殖・水耕栽培システム

野菜の栽培



北陸電力株式会社(富山県富山市)、北菱電興株式会社(石川県金沢市)、株式会社アクポニ(神奈川県横浜市)と連携し、魚の養殖と野菜の栽培を一体化させた生産技術「アクアポニックス」の北陸モデルについて、2020年度より産学協同研究を実施しております。金沢工業大学白山麓キャンパスのドームハウス内にアクアポニックスを設置し、実証実験に取り組んでおり、SDGsに資するための、北陸地域の食文化に沿った魚・野菜の生産を行う循環型生産システムの確立を目指しています。アクアポニックスとは、養殖と水耕栽培を掛け合わせた、次世代の循環型農業です。「魚」と「微生物」と「野菜」が共生する環境を人工的に作り維持することで、「魚」と「野菜」の収穫ができる生産技術です。自然界で発生する「排泄」「分解」「吸収」「浄化」の流れを利用した農業方法であり、従来の養殖と比較して節水が実現でき、環境負荷が非常に少ないという利点があります。生産性と環境配慮の両立ができる持続可能な農業として、近年注目が高まっています。



詳細はWEBをご覧ください

https://www.kanazawa-it.ac.jp/kitnews/2021/1109_aqua.html



モバイルハウスによるローカルバンライフ



車中泊スペースとキャンピングカーのシェアリングサービスなど「バンライフ」のプラットフォーム事業を展開する Carstay（カーステイ）株式会社（神奈川県横浜市）、地域のバス事業者のホワイトリングバス株式会社（石川県白山市）、地域 DMO でもある白山市観光連盟、地域の観光事業者との連携から、新たな旅や暮らしのスタイル「バンライフ」を通じた、持続可能

な地域観光モデル「Local Vanlife Project（ローカル・バンライフ・プロジェクト）」を推進しています。

白山麓地域を含め、全国の地方の現場では、鉄道の廃線や人口減少、高齢化、宿泊施設の減少や廃業、事業の後継者不足など、観光だけでなく、生活や経済基盤の存続は深刻な課題となっています。

このプロジェクトは、モバイルハウスを取り入れた、新たな旅やまちづくりのスタイル「バンライフ」による観光促進や関係人口の増加を目指し、既存の遊休観光スポットや社会インフラを工夫して利活用し、最小限のインフラ投資で実現可能な新たな観光及びまちづくりの在り方を創出し、持続可能な地域づくりを目指しています。

地方創生研究所 宮下智裕准教授の研究室では、プロジェクトの中で、地域において農業等のオフシーズンに有休の資産として眠っている軽トラックに注目。軽トラックの荷台に地元建材を用いた独自の「モバイルハウス」を開発しています。2020年度はキャンプをテーマとしたモバイルハウスを、2021年度は薪ストーブを用いたドラム缶風呂を搭載したモバイルハウスを開発。滞在するだけでなく、大自然を満喫する様々な機能を搭載したモバイルハウスの開発を行っています。



2021年度に開発したモバイルハウス「モバイ湯」



地域と連携して開催したバンライフエキスポ 2021

プロジェクトを推進することにより、本学学生に対する挑戦的な教育研究の機会の提供や、観光事業や関係人口の促進を図るということだけではなく、軽トラックを保有する地域住民によるモバイルハウスの貸し出しや、空いている私有地をバンライフのスポットとして貸し出すことによる経済的価値の還元、地元建材によるモバイルハウス制作による地元林業関連事業の活性化等のメリットをもたらすことが可能となります。

モバイルハウスを「移動することが可能な不動産（可動産）」と捉えることで、モバイルハウスの可能性はさらに広がると考えられます。都会の有名なシェフがキッチンカーで地域を旅し、地域住民との深い交流を深めるといった取り組みも可能です。プロジェクトに参画する企業や自治体、DMOとの連携を今後もさらに強化し、地域産業や地域住民との共創により、持続可能な地域を実現するエコシステムを創造・構築していく計画です。

産学連携について

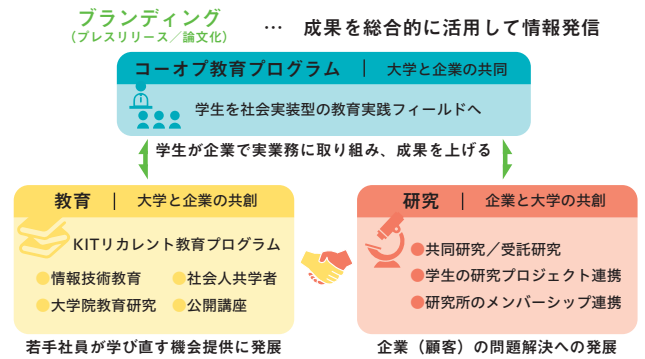
◆ 社会に開かれた多様な教育研究キャンパス

社会課題を解決し社会を豊かにするイノベーション創出を目的に、世代・分野・文化を超えた様々なステークホルダー（学生、教員、社会人、地域住民）による共創型の教育研究を推



進んでいます。
 受託共同研究などの研究の枠組みの他に、リカレント教育（社会人共学者、情報技術教育）、コーオプ教育やイノベーションフォーラムなど、「学びなおしや新しい知識を身につける」、「学生や教員とのつながりを創る」や「オープンイノベーションの生み出す」場や機会を提供し、世代・分野・文化の異なるステークホルダーが共に学び合うことで、様々なイノベーション創出を推進しています。

地方創生研究所・イノベーションハブでは、社会や企業の課題の解決を支援する URA (University Research Administrator)、コーディネータや教育研究プロジェクトや地域連携を支援するスタッフを配置することで、様々なステークホルダーが関わる社会実装型の教育研究活動が円滑に推進できる体制を構築しています。

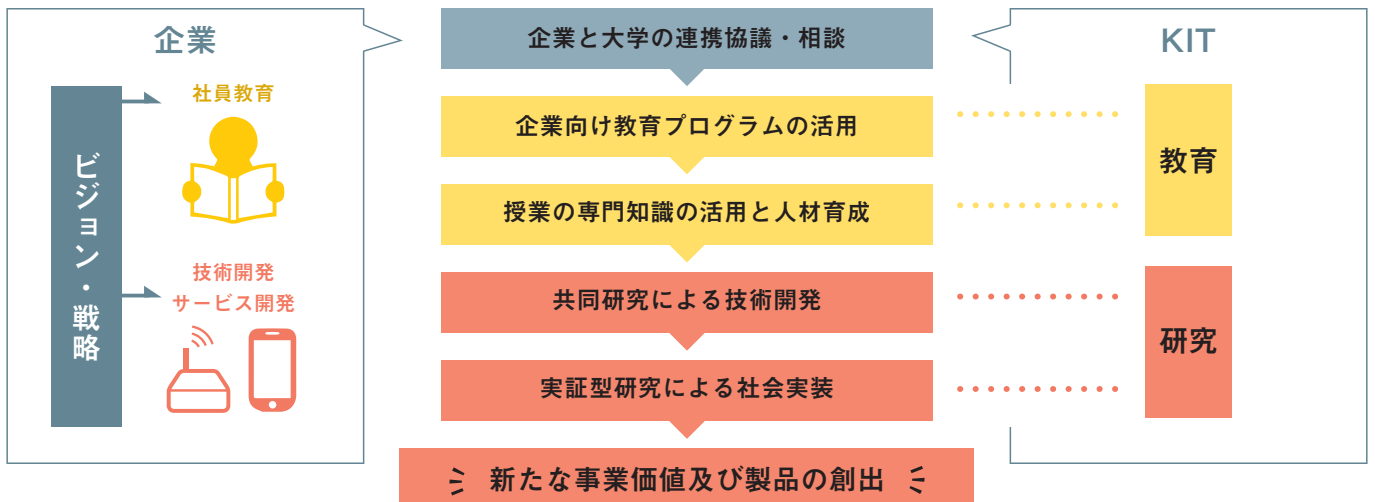


リカレント教育

◆ ただの「学び直し」ではない、専門力・組織力・人間育成を目指す教育プログラム

金沢工業大学では、「自ら考え行動する技術者」を教育目標に掲げ、2016年度より「世代・分野・文化を超えた共創教育」を実践しています。学生は、正課授業・課外学習を企業の技術者や海外からの留学生等と共に取り組むことで、幅広い知見やコミュニケーション能力を修得しています。

急速に変化する社会において、多様な人々とコミュニケーションを通して新たな価値を創造できる人材の育成が求められるなかで、金沢工業大学の社会人向けリカレント教育では、修得した知識や技術を応用し、それらを企業や社会の発展のために活用する共に、社会人が学生・教員との共創から新たな価値の創出を図る教育を実践します。



コーオペ教育

◆ 学生が実践的な問題発見解決業務に従事し、産学協同で新たな価値創出を実現

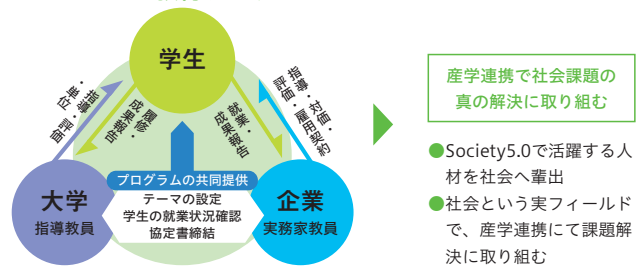
コーオペ教育（Cooperative Education.）は20世紀初頭に米国で始まった産学協同教育で、「大学のカリキュラムと、これと同レベルの高い完成度の教育価値を持つ就業体験」が融合したものです。本学のKITコーオペ教育プログラム履修者は、大学院生の場合は大学院科目「コーオペプログラム」の単位として認められます。また、大学院進学予定の学部4年次の場合は、卒業研究に相当する「プロジェクトデザインIII」の活動の一環とするか、大学院科目「コーオペプログラム」にあてることが出来ます。大学と企業が共同して学生に社会実装型の教育実践フィールドを提供することが可能となるコーオペ教育プログラムを核として、「新たな産学協同のプラットフォーム」を形成し、これまでにない製品やサービスの創出を目指すほか、独自ブランド化を共に目指す人材育成

システムの構築を目指します。

白山麓をフィールドとした地方創生研究所でのコーオペ教育の特長として、連携先の企業にとって、学生が有する技術的なスキルやコミュニケーションスキル、さらには新しい時代を創造するスキルが、実証事業を推進する上で効果的に機能するという点があります。実証事業において地域の方々からの理解は重要な役割を担います。これまでも、「ロボット技術を用いた遠隔操作による高度な農業運営」や、「顔認証システムを搭載した地域のエリア決裁システムの運営」、さらには「地域の文化的リソースのデジタル化による新たな観光コンテンツの創出」といった、挑戦的なテーマに取り組む企業との連携から、コーオペ教育が推進されています。



KITコーオペ教育プログラムのイメージ



共進イノベーションプロジェクト

◆ 企業と大学が連携したプロジェクトや共創ラボを通じ、様々な産学連携を推進



地方創生研究所において定期的に開催しているワークショップは、地域が抱える様々な課題に対して、自走可能な解決策をテクノロジーを活用して解決しようとする取り組みとしてテーマごとに実施しています。

ここではただアイデアを出し合うだけではなく、現実的に自走可能な解決策や新規事業を、企業人と学生が連携して考え、自治体や地域に対して提案するところまで行うことで社会実装を目指しています。

このような取り組みから、企業の規模を問わず、共通の目的のためのフレームワークを通じて複数の企業間連携が生まれています。

また、自社のソリューションの社会実装を目論むメンバーシップ企業には、どの地域のどこにリーチすべきかを、URAをはじめとする大学職員がコーディネートしています。

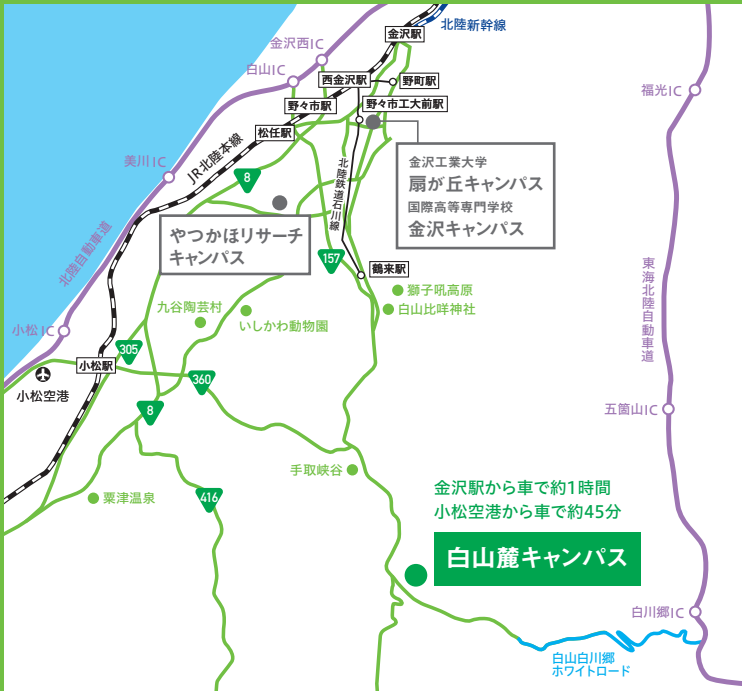
そのため地域全体がキャンパスともいえるべき広がりを持ち、実際に住民が生活する空間までを実証のフィールドとして活用することが可能になっています。

また、これらの取り組みの成果はWEBのほか「地方創生フォーラム」などのイベントを通じて発信しています。

詳細はWEBをご覧ください

<https://www.kanazawa-it.ac.jp/IRRI/story/>





KIT | 金沢工業大学

産学連携局

〒920-2331 石川県白山市瀬戸辰 3-1

Tel 076-294-6740

Mail isp@kanazawa-it.ac.jp

HP <https://www.kanazawa-it.ac.jp/IRRI/>

